

二輪車リサイクル自主取組みの進捗状況について

2004年10月1日より開始した二輪車リサイクル自主取組みの2004年度下期進捗状況を、参加事業者15社の実績を総括して、(財)自動車リサイクル促進センターより報告いたします。

1. 二輪車リサイクルシステムの運用状況

自主取組みにて構築したリサイクルシステムは、廃棄二輪車の引取りにおいて、仕組み上のトラブルもなく順調に稼働しております。

(1) 引取り～処理・再資源化の実施

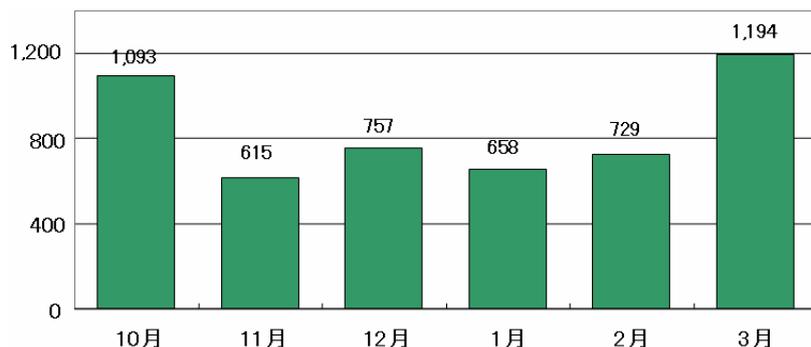
指定引取窓口、処理・再資源化施設は、家電リサイクルAグループ(松下、東芝等)を活用させていただいておりますが、指定引取窓口、処理・再資源化施設共に、家電リサイクルとは別の保管スペース、処理ラインを有しており、今後取扱い台数が増加した場合であっても家電リサイクルへの影響がないよう配慮しております。

また、14ヶ所の処理・再資源化施設では、メーカーが定める作業マニュアルにより事前選別を行った後、広域認定取得の処理フローに則って適正処理、再資源化が行われております。

(2) 二輪車リサイクルコールセンターの状況

2004年10月システムスタート後、二輪車リサイクルコールセンターへの問合せ件数は、累計で約5,000件(H16/10～H17/3)になり、二輪車の需要期の3月にはコールセンター開設後最高の1,194件の問合せがありました。一方問合せ者分類では、ユーザーからの問合せが大半を占めており、その問合せ内容も二輪車の廃棄希望が多く、持参場所、リサイクルの手続き方法など処理に必要となる具体的な内容となっております。

月別着信件数



(3) 自治体との連携

自治体の協力による排出も動き出しています。自治体が回収した廃棄二輪車の引取り要請において、不法投棄・放置二輪車処理等の大量排出時の部品欠落、車台番号不明等のイレギュラーを勘案した受入れ基準を設定し、運用を開始(国内4社のみ)しております。

2. 実績

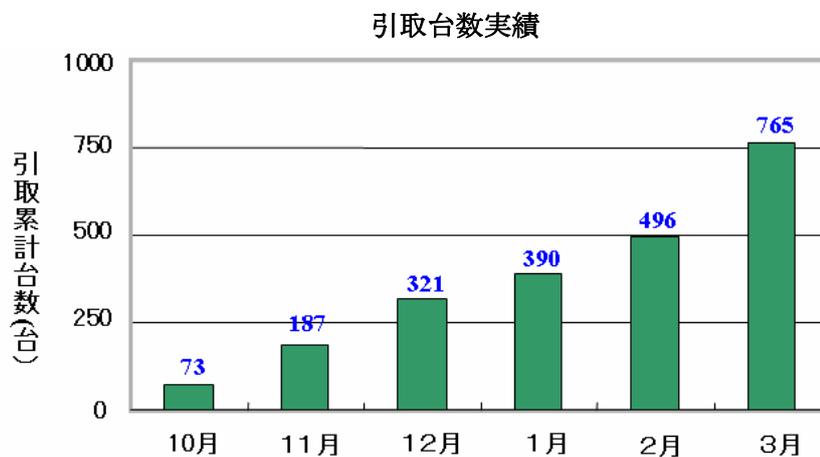
(1) リサイクルマークの貼付車状況

参加事業者は、本年9月末までにリサイクルマークの全機種貼付に向け、順次リサイクルマーク貼付車を市場に投入しております。2005年3月末現在で市場に投入されたリサイクルマーク貼付車は、合計で178機種となり、システムスタート後(H16/10～H17/3)参加事業者15社が日本国内に出荷した総台数に占める割合は、28%となっております。

(2) 引取り台数

指定引取窓口で引取られた使用済み二輪車の台数は765台となりました。引取り車輛の廃棄物分類をみると、一般廃棄物;66%、産業廃棄物;34%となります。

また、二輪車の需要期は3～5月ということもあり、昨年10月から2月までは低調な実績となりましたが、3月よりコールセンターへの問合せが急激に増加するなど、実績も増加傾向が出始めているところです。

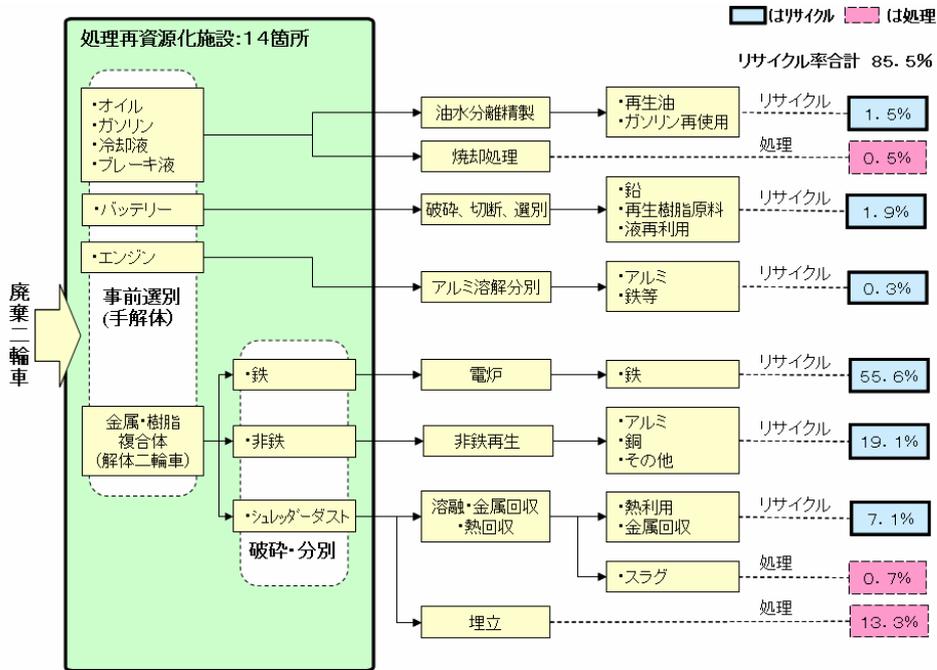


(3)再資源化割合

処理・再資源化施設14ヶ所の各施設にて品目ごとのリサイクル量又は処分量を集計し総合計すると、二輪車のリサイクル率は重量ベースで85.5%となりました。

なお、スクーター系(三輪車、ビジネスを含む)のリサイクル率84.5%、モーターサイクル系のリサイクル率86.7%となっています。

処理・再資源化のフロー(重量ベース)



3. 今後の対応

二輪車リサイクルシステムの利便性をさらに高め、恒久的に運営するためにはユーザー認知度の向上が重要であることから、下記項目を関連事業者と協力し着実な社会定着を目指してゆきます。

1) 販売店への周知徹底によるユーザーへの更なる理解活動

- ・ 各社毎による販売店への協力依頼の更なる徹底(7月末まで)
- ・ ユーザーへの利便性向上を図るための廃棄二輪車取扱店名簿の HP 公開(8月予定)

2) 自治体と連携した住民への更なる理解活動

- ・ 粗大ゴミ(50cc以下)としての引取りを中止する自治体に対して、中止前の事前連絡のお願いと住民への広報活動のお願い

3) (財)自動車リサイクル促進センターからの更なる理解活動

- ・ 二輪車イベント等における二輪保有ユーザーへの PR 活動の実施

以上